

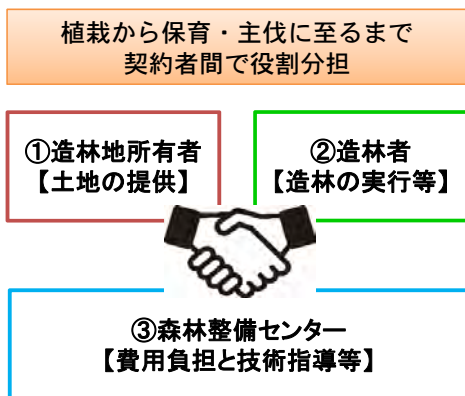
も り 私たちのくらしと水源の森林づくり

- 水源林造成事業は、ダム上流域など水源涵養上重要な奥地水源地域の民有保安林のうち、水源涵養機能等が劣っている無立木地、散生地、粗悪林相地などを対象に水源林を造成する事業です。
- 昭和36年から、これまでに全国で約49万haの水源林を造成してきました。これは、東京都と神奈川県合計面積に相当します。
- 成林した水源林は、国民の皆様の生活に不可欠な水を育み、土砂の流出や山地の崩壊防止などに大きく役立っています。



水源林造成事業について

- 水源林造成事業では、分収造林契約に基づき契約者がそれぞれの役割を果たすことで、水源林を造成します。



○主伐収益分収
(造林地所有者40%：造林者10%：森林整備センター50%)

- 全国各地の重要な水源地域において水源林を造成しています。

● 水源林造成事業地



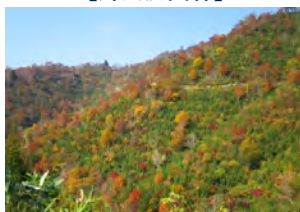
未来に向けた森林づくり

- 水源林造成事業では、森林の持つ公益的機能をより高度に発揮させるため、針葉樹・広葉樹が混じった針広混交林や、林齢が異なる複数の樹冠層となる育成複層林の造成に取り組んでいます。

- 将来主伐する際には、伐採面積を縮小・分散化させ、公益的機能の発揮に配慮した施業に取り組むこととしています。

【針広混交林】

【育成複層林】



(福井県大野市)

(熊本県人吉市)

水源林の公益的機能

水源涵養効果	環境保全効果	山地保全効果	地域振興への貢献
○良質で豊かな水を供給 ○洪水防止や水質の浄化 年間約30億m³を貯水 (東京都で使う約2年分の水量に相当)	○二酸化炭素の吸収 ○酸素の放出・大気浄化 年間約230万トンの二酸化炭素を吸収 (約175万世帯が1年間に消費する電力の発電時に排出されるCO₂量に相当)	○土砂の流出・崩壊の防止 ○災害に強い森林整備 毎年約9千2百万m³の土砂の流出を防止	○地域雇用の創出 年間延べ約55万人の山村地域の人々の仕事を提供

水源林の公益的機能の効果額は、貨幣換算可能なものだけでも、
年間約9千億円

(注) 公益的機能の効果額は、昭和36年度から令和5年度までの63年間に造成された水源林造成事業地全体が令和5年度の1年間に発揮した、「水源涵養効果」「環境保全効果」「山地保全効果」を試算しています。

森林整備技術の高度化

- 森林整備センターでは、森林における新たなICT技術の活用や野生動物の特性を生かした施業手法を積極的に進めています。

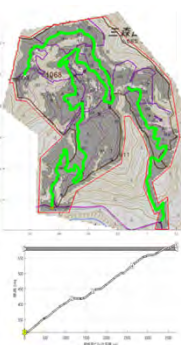
- 図1：無人ヘリコプターに搭載したLiDAR(光による検知と測距)による林況調査
- 図2：FRD(路網設計支援ソフト)とGIS(地理情報システム)の連携による路網設計
- 図3：ブロックディフェンス(対象区域を小面積の区画に区分し獣道を残置するなどして防護柵を設置する防除法)によるシカ害防除



【図1】



【図2】



【図3】

